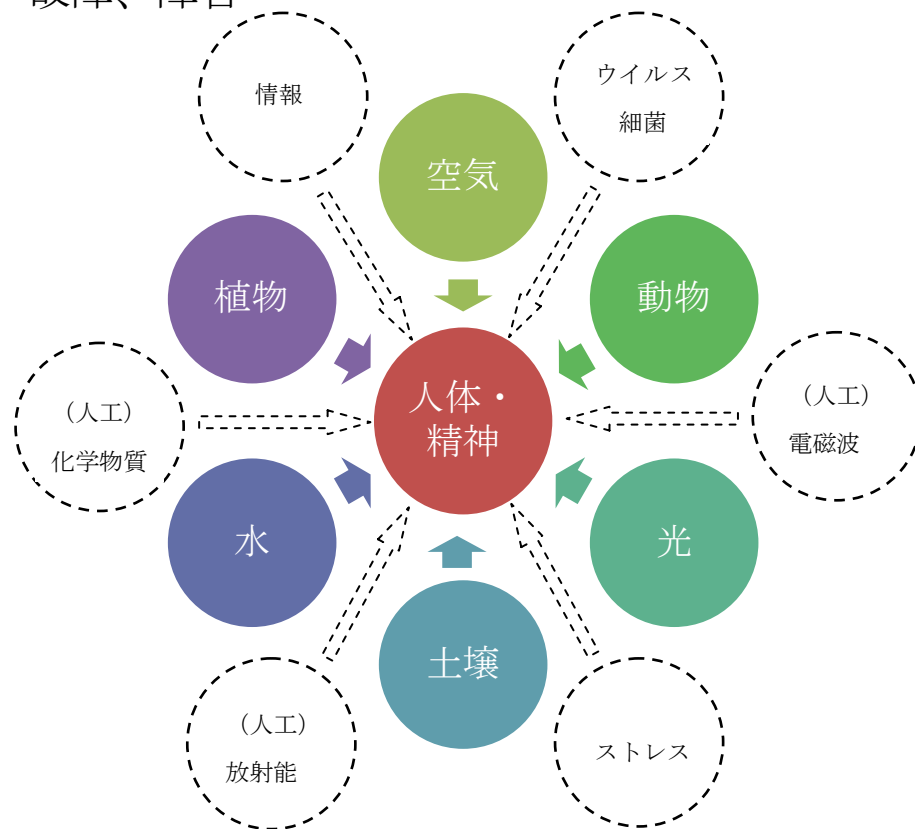


なぜ？病気になり、そして癒えるのか。

1. 病気、故障、障害



人に影響を与える環境の概念

人の心身はもちろんですが、動物も植物も霊妙且つ精妙なしくみ（スーパーシステム）と体内・体外の環境によって支えられて生かされています。

生きとし生けるものすべてがこの調和された『環』や『系』のなかで共生していくことができれば、病気や故障、障害は少なくなるはずですが、もし仮に問題が起きたとしても、速やかに元に還ればよいことです。

ところが、現代の人間社会は智慧のない“いびつ”とも言えるほどの科学技術の発達によって、大事なことが抜け落ちてバランスを崩してしまったようです。

科学や医学の発達は、人間の豊かさや健康、幸せに資するどころか、自然環境を壊し、病気や故障、障害を引き起こし、増大させ、蔓延させる原因となっています。

そして、その原因を特定できない複合汚染のため、難病・奇病として扱われ、またその為の新薬開発にしのぎを削り、極限までの国家予算や科学者をつぎ込んでいるのが実態で、光の见えない負の連鎖が今の人間社会のしくみではないでしょうか。

※科学や医学が無用ということではなく、不易流行ということですが、愛のない意識と目的、行動が問題であります。変えてならぬものはならぬのです。

人の体の臓器や生活する上で必要な水、食品、薬品、物（質）等あらゆるもののバランス（ゆがみ、ずれ）を測定できる MRA（共鳴磁場分析器）が、1989 年にアメリカの医学者グループの研究者であるロナルド・J・ウェインストックによって発明・開発されました。（歴史的にみると、アメリカのエール大学教授のハロルド・サクストン・バーやドイツの医学者など多くの科学者の研究から始まっています）

詳しい機能や測定方法は割愛しますが、この MRA によって原子核レベルの「ゆがみ」や「ずれ」を測定出来るようになったことで、生命体や物質の「ゆがみ」や「ずれ」の程度、或いは健全さを知ることができるようになりました。それによりますと、測定したい対象物に対して知りたい固有の微弱な振動を送ります。その振動に共鳴する数値が高いほど健全であると言う結論です。

MRA で測定出来る範囲は $-21 \cdots 0 \cdots +21$ の 43 段階です。

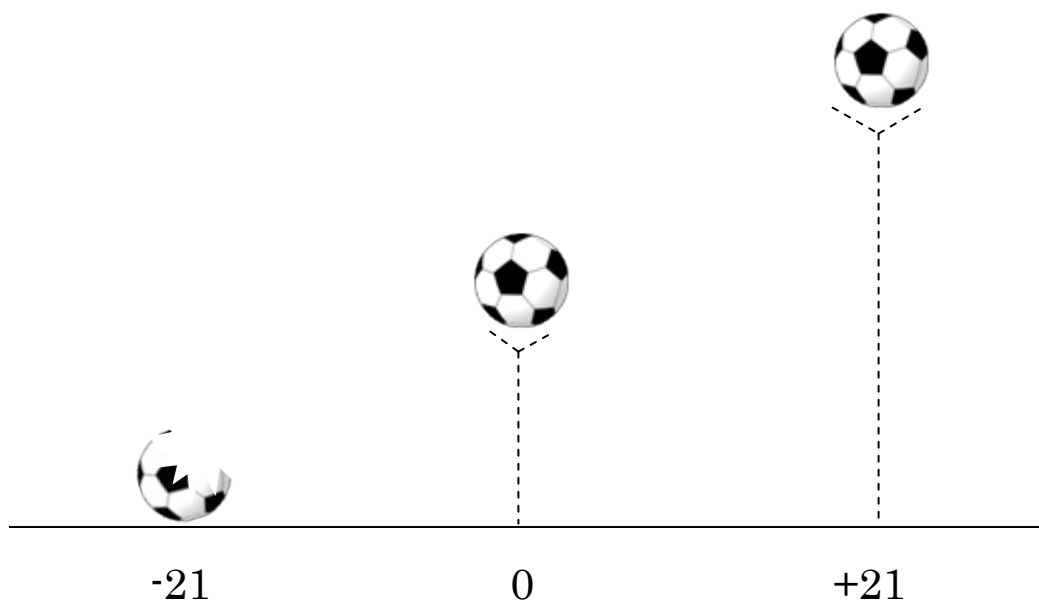
固有の振動に共鳴する = 健康体（数値が +21 に近づくほど良好）

固有の振動に共鳴していない = 病気（数値が -21 に近づくほど危険）

人間の身体や自然に良い現象を“プラス”

人間の身体や自然に悪い現象を“マイナス”といいます。

どの項目でも概ね+16 以上であれば、健全或いは健全体であるといわれます。

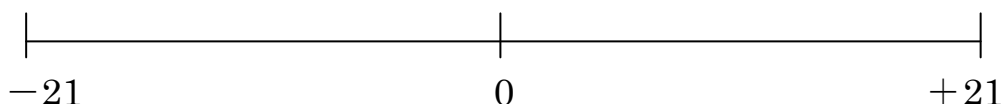


MRA (Magnetic Resonance Analyzer)



【共鳴磁場分析器】

1989年、米のロナルド・J・ウェINSTOCKによって開発された計測機器で、あらゆるものがもつ固有の波動を計測する装置です。元素には元素の、分子には分子の、器官には器官の固有の波動があります。例えば、心臓には心臓に固有の波動があり、もし心臓に何か異状があるといった場合に、心臓に特有な、かつ正常な波動を共鳴させることによって、正常波との間にどの程度の乱れがあるかを計測します。肉体の各臓器に限らず、私達の日常生活において、欠かすことの出来ない水や食べ物もすべてMRAで計測することができます。



図のように、0を挟んで、-21に近づくほど、身体になんらかの悪い影響を及ぼし、+21になるほど、身体を良い方向へ導くと考えて頂ければ理解しやすいと思います。また、形があるものと同様に意識などの形のないものについてもそれぞれに固有の波動があるとし、意識の状態についても計測が可能となっています。

人間の場合、免疫という項目で計測してみると+15~+16ぐらいの数字がでるとまずまず健康体と言えます。しかし残念ですが、私達が毎日飲用する水道水は、-5~-8ぐらいのものが多いです。

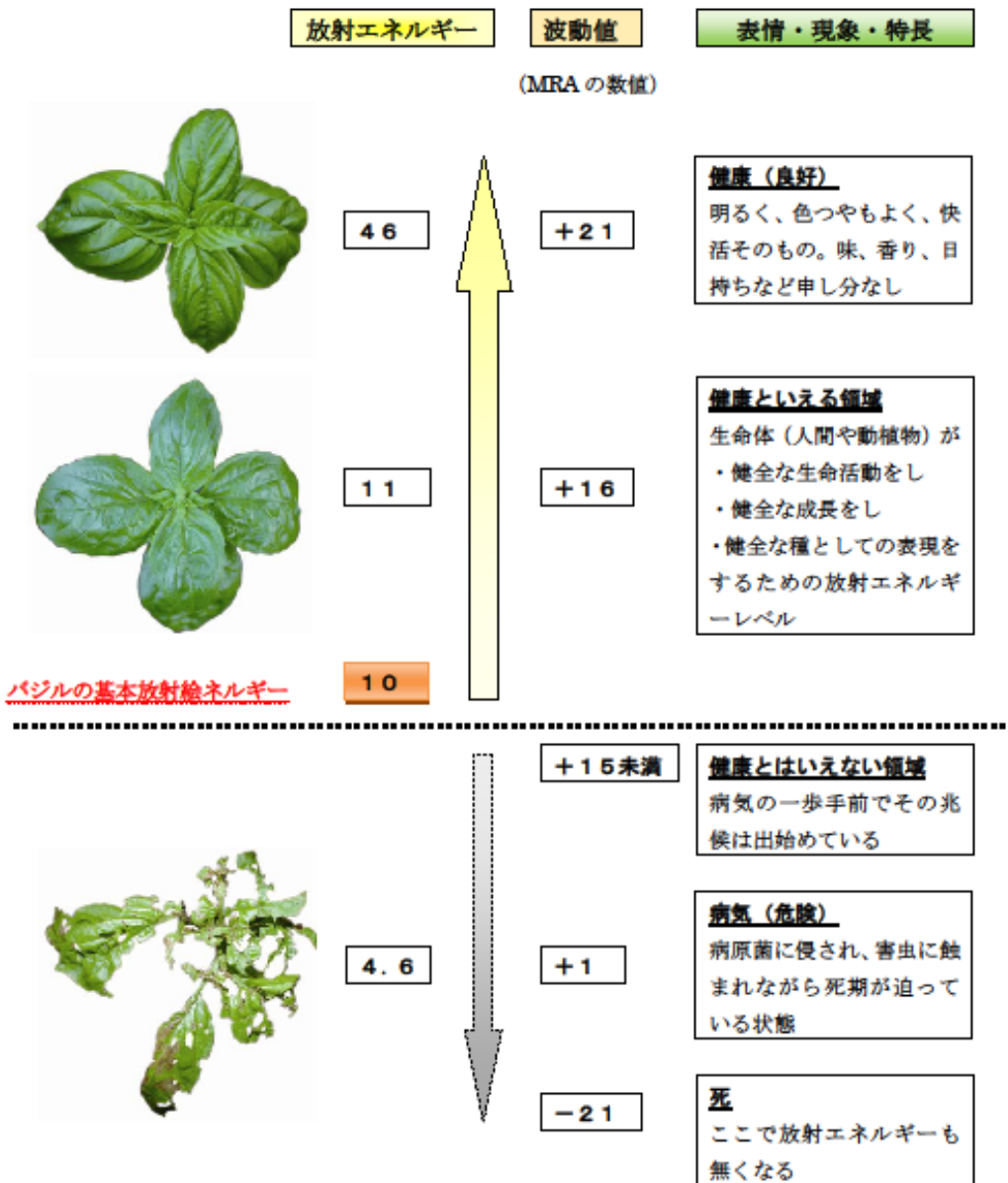
当然ながら、自動車の排気ガスや室内のエアコンから出てくる空気なども0以下の低い数値です。

因みに、LOA商品は申し上げるまでもありませんが、LOA商品を使い介在した物質、或いは影響下にあった物質、取分け水や空気、排気ガス、農産物や食品、食器などの人の健康に直接影響する免疫、陰陽のバランス、ストレス、抑うつ、ガン、アトピー、皮膚（その他全ての内容と言っても大丈夫でしょう）の波動測定値はすべて+21の値でした。

次のページに植物の状態から判る環境エネルギー概念（固有の放射エネルギーと波動値）とミクロの世界での環境エネルギーの重要性（働き）を参考までにお伝えします。

環境エネルギー概念

『生命体が活動している場のエネルギーと波動内容の高低の総合的エネルギー』

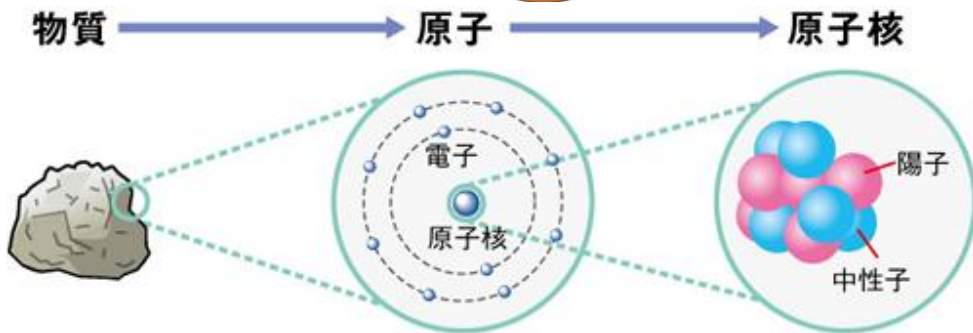
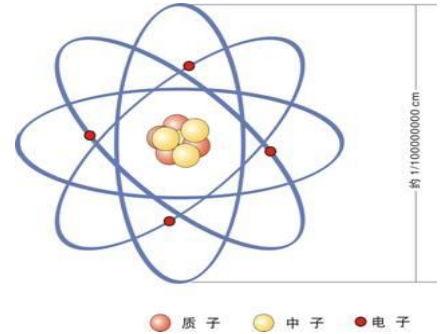


Copyright©Contact Corporation All Rights Reserved

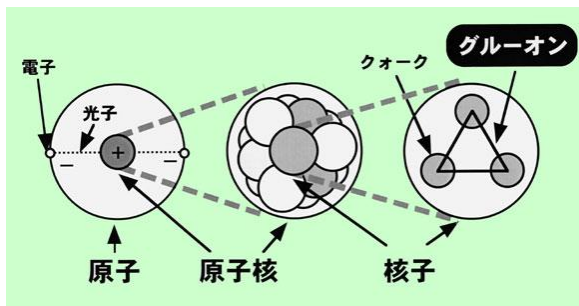
生体 ⇒細胞 ⇒分子 ⇒原子 ⇒原子核+電子



自転しながら公転している



原子核 ⇒陽子・中性子・中間子 ⇒クォーク ⇒・・・



正体不明の物質やエネルギーからはじまり究極の“結合”を重ねながら、物質や生体は形成されています。

- ・固有の周波（波動）を持つ
- ・中性子＝意識
- ・陽子＝意志

(原子核より)

ここの段階で共鳴力が強ければ問題無いのですが、共鳴力が低下している場合は、この原子核が形成しているもっとも大きな「分子」に影響して、「遺伝子」に異常を来すと考えられます。「遺伝子」を正常に保つためには、それらを形成しているもっとももっともマイクロな世界に解決を求めなければいけません。陽子と中性子をつなぐ中間子の力（核力・強い力＝グルーオン）を貴めることです。もう一つ、解決のヒントは、すでに原子核を形成している中性子は「意識」を司り、陽子は「意志」を司っているという説もあります。

これよりもさらにマイクロな素粒子の存在も実証され、もっとマイクロな素粒子やそれを形成する諸現象の追跡・解明も進んでいます。ここの段階で人間や動植物、あらゆる物質が本来もっているエネルギー（これは熱エネルギーとは異なり、完全に調和・結合するために存在する力のこと）を貴めてやることです。

2.何故「ゆがみ」が生じるのか。

(波動が共鳴しなくなるのか)

★先天的なもの

母体の中で発育中に生命体の結合を弱めてしまう多くの原因があります。両親が健全であっても生後多くの病気や障害が出ている子供がいます。この現象なども体内に在る期間に何らかの影響を受け、完全に結合できない原因があったと考えられます。また受胎以前に両親のいずれかに「遺伝子」の異常がある可能性もありますので、受胎以前に正常な遺伝子を形成させていく必要があります。

★食べ物

光・空気・土壌・水・微生物など自然の恵で作るべき農作物を、姿・形にこだわり、自然に逆らうような品種改良や農薬、化学合成肥料の多用によって環境破壊を進行させ農作物が本来持っている力（栄養分や滋養分）を失っています。そして農薬や食品添加物などのマイナスが体内に滞留してしまう。現在はそのような農作物が氾濫しているのです。

★電磁場

高圧線の下は以前から建物を造ることを禁じています。これの最大に理由は、電磁波が人間に大きな障害を起こすからであることは知られています。しかしもっと身近な所で色々な電磁波に曝されていて、少しずつ体を蝕んでいっているのです。

自動車、電車、新幹線、飛行機、スピードの早くなるほど電磁場障害も増大する、携帯電話やスマートフォンなども脳に近いだけに深刻です。自動車の中で携帯電話などは相当に悪い環境だと知るべきであります。ハイブリッド車や電気自動車など言うに及ばずです。

家に居ては、IH 調理器、電子レンジ、電気毛布、電気カーペット、電気コタツ、テレビ、パソコン・・・ほとんど大半の電気製品は電磁場を作り出しています。なにげない日常が人体へのダメージを増加させているのです。

★環境（複合）

以上のように日常の生活だけ捉えても問題山積です。大規模な工場や農場、店舗、社会インフラ（自動車や船舶、携帯電話などの基地局、原発関連の事故から漏れ出す放射能）など推して知るべしと言えます。人類社会全体で大気を汚染し、水を汚し、オゾン層を破壊し、自らの健康を害し、そして異常気象まで生んでいるのです。



3. 如何にして「ゆがみ」を正すか

水のことについて述べてみたいと思います。

科学技術が進めば進むほど「ゆがみ」が生ずる原因が増加する。そして、昔はなかった病気が登場して蔓延しています。西洋医学では解決のつかない病を「奇病」とか、「原因不明な病気」或いは現象を捉えて「新しい病名」を付けています。病気の原因が判らず、私たちの健康を日常どのように守るかが大切であり、他人（医者、病院、薬品会社など）任せにすることは出来ません。毎日の食事に気を配り、環境汚染や電磁場障害からのダメージ・ストレスを最小限に食い止めること、人間や動植物が本来持っている霊妙且つ精妙なエネルギーの波動を自然と共鳴させ貴めていくことが必要不可欠です。

そのためには、ストレスの原因を和らげ、原子・原子核のレベルから波動を共鳴させ、「ゆがみ」を正して、バランスを整えていかなければ根本的な解決になりません。既に知られていることですが、原子核を形成している陽子と中性子には「陽子＝意志」「中性子＝意識」の存在があり、意識を高めると中性子が活性化し、共鳴運動が増加すると言われています。

人間の体は約 70%が水分ですが、あらゆる生命体は水によって形成されています。水こそが生命体の根源（Arche）となっています。しかし全ての水が良い水とは言えません。原子⇒分子⇒細胞への「ゆがみ」の情報は、水によって伝達されています。由って、水はとても重要であり、良い情報を持った水に触れれば、病気・故障・歪み等の非共鳴部分は共鳴するようになり、人間が本来持っている潜在力を引き出すことが出来るのです。

いかなる物質にも最低 1 分子以上の水分子を含んでいます。DNA・RNA にも、そこに存在する“水”が遺伝子情報を引き出したり伝達したり記憶したりします。

つまり、“水”は「遺伝子情報を活かす」ためには絶対不可欠なものなのです。本来、全ての遺伝子は完全な情報を持っていると考えられます。遺伝子情報の優劣のカギを握っているのが、“水”であって、“水”がどれだけの遺伝子情報を引き出す力を持っているかが重要です。この「遺伝子情報を引き出す力」を『環境エネルギー』と称しています。

『環境エネルギー』が貴ければ貴いほど、遺伝子情報を引き出す力が強くなり、私たちが生まれて来るときに伴に生まれてきた主治医、即ち免疫機能・自己調整機能・自然治癒機能・自己活性化機能など生体が本来持っている諸機能が正常に発揮できます。言い換えますと、生体（人間）に存在する“水”の『環境エネルギー』を貴めることができれば、遺伝子の活性化につながるようになるのです。

私たちは、自然の摂理の中でより良く生きられるように仕組まれており、生物が本来持っている力を完全に機能させることがとても大事なことだと考えています。